

第2回森林再生実行会議 議事録(全文)

令和3年10月9日(土)13:30~15:30

松本市役所 本庁舎 大会議室

(事務局)

定刻となりましたので、ただいまから第2回松本市森林再生実行会議を開催いたします。本日の会議ですが、より多くの方に、森林再生について関心を持っていただくため、ライブ配信を行っております。会議の終了が午後3時30分を予定しております。スムーズな会議の進行にご協力をお願いいたします。

それではここからは座長に進行をお願いいたします。香山座長をお願いいたします。

(香山)

第2回の会議ということで、第1回としっかりスタイルを変えました。これは第1回の会議の中で、4人で向かい合って会議をするのではなく、松本市民の皆さんに向けて会議をしようと。しかも、これYouTube配信ですから、今ここに傍聴にいらっしゃっている方だけではなくて、松本市民だけではなく世界中に配信されてるということで、日本語がわかる方は世界中でこれを聞いているわけですね。

前回の会議の時にこれからどういうふうに進めようかという話をしてきたわけですが、その進め方を、この実行会議というのは昨年度の検討会議、専門家による検討会議の提言を受けてということで始まっているんですが、それをこの4人だけで進めていく、というのではなく専門家の声だけではなくて、やはりいろんな人の声を聞いて、その上で来年度からどうしていくか、そういう進め方がいいんじゃないかということで、そういう意見が出まして、会と会の間、とにかくそれぞれのやり方で、地域に出て地域の皆さんの、その方の森林再生に対しての考え方、意見そのものを聞いてみようということをやってみました。期間として1ヶ月ちょっと、2ヶ月ぐらいはあったんですけど、十分にできてるという段階ではないと思いますが、今の段階でどのようなことが各委員の活動の中へ得られたのかというちょっとその辺の報告から始めていけたらと思います。

実は第1回の会議の後に、そもそもこの検討会議のあり方として、普通こういう市の公のところは、日常的な情報の発信の場というのがホームページぐらいしかないんですが、それとは別に、委員独自による発信をやろうということで、Facebookページを作ったりとか、いろんなことを進めているんですが、そういう中で、今回の第2回の実行会議はFacebookのイベントという形にもなっていて。そのFacebookイベントの方を、一応仕切っていただいている渡辺委員。まずは、どんなことやってきたのか、どんな意見があるのかそのへんの話聞かせていただけたらと思います。

(渡辺)

私の方では松本市内の飲食店7店舗程度まわったり、木材のDIYイベントがあったので参加して松本市内の方のご意見を聞きました。その中で木に興味がある方がいらっしゃったり、あまり木材の事にちょっとピンときていない方も中にはいらっしゃいました。その中で印象に残った部分としては、生まれも育ちも松本市の方で、生まれ育った町の風景を観ていく中で里山が枯れている姿

を見て、すごく寂しいという方の率直な意見も聞いたりしました。

他には、飲食店の中で経木と言って、木を薄くスライスして昔話の中でよく見るおにぎりを包む木の薄いものがあるんですが、これを使用して飲食店で皿の上に飾りとして置いてあったり、品の名前を書いたりとか。経木を使ったお店の中にはあって、私も知らないところで、木を使った飲食店もあるんだなっていうことに気づきました。

他に感じたことは、森や木に対して興味を持っていてくれる方もいらっちゃって、オーナーさんは興味を持って使っているんですけど、そのスタッフさんは普段使っているけどあまり知らなかったりとか、あまり木について考えたことがなかったりとか、気付いてない方もいたりとか、距離を感じた部分もありました。

(香山)

それは松本の木というところまで話はしたんですか。それとも木を使ってるっていうそんな感じですか。

(渡辺)

松本市内の木っていうよりは、木材全体として意見を頂戴しました。中には飲食店の方で、どこの木とかはわからないけれども、DIY が好きでお店をリノベーションするのに古い古材を使って、かっこよくお店のカウンターにしたんだって嬉しそうに話しているお店のオーナーさんもいらっしました。

(香山)

そうなんですよね。木を使うというところまではあったとしても松本の木かどうかというのは、実は繋がりがなくて。これ我々木材業界関わらず、業界の中の構造的な問題というか。松本の木を売ってるというお店をまだ持っていない。そういう段階で、だから松本の木、森林から松本の木と、なかなか繋がらないんですが、提言の中にも地域の森林から木材を使っていくという項目も入っていたので、どういうふうに進めていけばいいのかなっていうその辺の課題を感じますね。とりあえず木を使ってくれるってことで、関心はあるということだと思います。

特になければ、そもそも今回は街に出ようという話になった直接のきっかけは、三木委員の方から、私がやりますという提案を出されて、本当にやるのか、本当にやっていただいたんですが、それでは三木委員の方から実際に街に出て、どんなことをやって、どんな言葉があったのか、その辺のことをお話ししていただきたいと思います。

(三木)

言い出しっぺは実はあまり、松本に来られていないっていうところで、この間やったことをちょっと説明しておこうかなと思います。一つはこちらに置いてあるんですけど、こんな「のぼり」を作りまして。ここに「森林再生とあなたの声を調査中」と。私が立っているだけだと信用がないので大学名も書いてありますけど。こういうふうなのぼりを作って市内で調査できるように一応グッズは揃えたという感じです。

ただそれだけでは、何をしてるのかっていうのはわかりませんので、いろいろ考えてここにちっちゃい紙がありますけれど、松本市の森林再生実行会議ってのは何をするのかというのを少し書こうとしました。だけど結構難しくて、一応私がこの紙に書いたのは、松本市の森林再生検討会議の後で、森林について市民が求めていることは何だろう、市民の手で何ができると松本市は一層面白くなるのだろうということを、街頭で調べてますという紙を作りました。ただこれが森林再生実行会議の内容をうまく反映してるかどうかはちょっと自信がありません。

それで松本市の市街地で調べたという声を小山さんと一緒に立って聞いたんですが、まだ数名です。それと、私の本業の方で、松本市の方とお行き会いすることがありまして、そのときにも松本市の森林についても、どういうふうなことを気にされてるかっていうのを聞きました。

その内容をご紹介しますと、一つはやっぱり松枯れっていうのは非常に大きいということで、松枯れを気にされていますし、この後どうなるのか。やっぱり緑の山というか、眺めの良い綺麗な山ってというのが、再生して欲しいというのは市民の切実な声なんじゃないかなと思います。また、眺めが良くないというだけではなくて、道に木が倒れてきたりするっていうのはやっぱり心配だよねということも聞かれました。これも当然の事かなと思います。

あと少し面白かったのは薪ストーブの薪をどういうふうに調達したらいいだろうという、これは薪ストーブユーザーの大体のどこでもそういう悩みをお持ちだと思いますけど、そういう関心もあるということです。それで、森林と薪ストーブユーザーみたいに、森林から出てきたものを使うという繋がりが市民というのは大多数だと思われるんですけど、森林と直接の物質的な、何か物を取ってくるという形の関係のない方々ですね。

この東山ですかね、松本市の東側です。こちらは非常に距離は近いんだけど、実際自分たちが入って使うとか、例えば子ども連れて山の中を散策するって言ったときに、どこに入っているのかよくわからないという、近いんだけど行きづらい山というふうな形で、おっしゃられました。

西の山の方は割と観光地ですかね。そういう点で、ちょっと遠いけれどもまあ入れる山と、近いけれども入れない山というふうな感じで、印象持たれているのかなと思います。ちょっと聞く数が少なかった。これからまたねじ巻いてやろうと思っています。

一つは、財産区等で活動されてる方々とお行き会いをしましたので、これから森林の中でボランティア活動、森林整備を、住民自身が森林整備をやられてるようなところにお伺いして、その人たちの話を聞こうと。

もう一つは私の仕事上も、仕事の中でも繋がりで松本市内の高校の先生に繋がりができまして、高校生に話を聞かせてくれないかということは今頼んでいるところです。高校生もこれからの松本市の市民になって、誰よりも長く松本市の森林と関わっていく人だと思いますので、そういう人たちが今、どういうふうなことを考えているのか、或いは松本市の森林にどういうニーズがあるのかっていうところを聞いていきたいなと思ってます。

で、さっきの色紙だけじゃなく、松本市の図書館とかそういうところに置けないかと思って、こういうふうに思ったんですけど紙を作って、ちょっと考えているところです。

これは松本市の森林に、気になってることや、どんな気になってることありますか、どうなってると思いますかっていうようなことを、私が全部話聞ければいいんですけども、そういうわけに

いかないので、紙を置いてこれを見た方がメール送っていただければいいなというので、これ紙を作りました。これはまだ考えてるところなんです。

で、お手元に配りましたけど、何かもうちょっとキャッチーにならないかと思って自分で絵を描いてみましたが、私の絵は華がないというか、あまりキャッチーにならなかったのもう少し考えます。要検討ということで、これから10月、11月と市民の方々にお話を聞いていこうと思います。

YouTubeとかFacebookで見えていただいている方もですね、ぜひお話を聞かせ願えればと思います。

(香山)

なかなか街に出て活動するという、そもそもそういうことを普段やってないので、どういうところから行ったらいいのか、まずどこへ行ったらいいのか、場所探しも大変ですね。そういう意味ではこういうことを動き出すと、いろんな繋がりが出てきてってということになるのかなというふうに思いますけれども、今の三木さんの話を聞いて他の委員から何かありますか？

(渡辺)

先程の三木先生のお話で華がないとおっしゃっていましたが、かっこいいチラシがありましたので図書館とか市内とか、そういったところにももちろん置きたいと思いますし、先程の飲食店の中にも木の事に興味持っている方もいらっしゃるの。あとは知り合いにキャンプグッズの販売もしているお店もありますので、山登りが好きな方が集まるような店舗だったり、店にも置けたらもっと面白くなるんじゃないかと思いました。

(三木)

ちゃんとした紙を作らないというプレッシャーが高まりますね。

あと松本市じゃないんですけど、ちょっとこの間の動きとかほかの方からご意見いただいた学校教育の場で、木工みたいなことをやる学校があるわけですけど、子どもたちが木に親しむっていうのは非常に重要な機会だと。もうほとんど唯一の機会かもしれないと思うんですけども。

この間、ウッドショックで木材の価格が末端で売られてる価格が上がってしまい、調達に苦労されてるという先生のご意見も、他の市町村の方ですけど。おそらく松本市内でも木を使っているいろいろな教育をやられてる方々がいらっしゃると思うんですけど、今年は大分苦労されてるのかなというふうに推測されます。

(小山)

私自身は、渡辺さんが市内でそういう近い方。三木さんが市民を中心という話になったので、ちょっと遠い方に取材できないかなということも含め、インターネットを使っていろんなところに聞こうかなと思いつつも、三木さんどうということやってるのかなという興味と関心のもとに、三木さんと一緒に現場に立たせていただいた結果、現状としてはそこまで遠くに聞かなくてもよかったなということがあります。

ちょっと簡単なまとめをPDFでご用意しましたので、ちょっとスライドで見ただけだと思います。私自身三木さんと一緒に、ほぼ1日だけですけども現場の方に出させていただきますし

て、どこ行ったかと言いますと、松本市の中町です。

9月の終わりに、幸か不幸か非常に天気が悪くて、嵐のような時に行ってしまったということはあったんですけど、ちょうどこの日がエネルギーとエコロジーを考えると、そういう歩行者天国が開かれ、それがきちんと周知されていればいわば環境意識の高い方が来るんじゃないか、市民の中でもそういった方に来ていただけるんじゃないかなということがあって。そういう意識がありまして、そこの歩行者天国に行って話を聞いてみようと。特に主催されている方よりも、そこに来られてる方に。

どんな方がいるのかなというのを中心に私自身は興味を持って聞かせていただきました。松本の街を歩いてる方に聞いてみたということで、9月の26日松本市の中町で、歩行者天国を舞台に通行人の方にいろいろ聞きました。とは言っても自転車で駆け抜ける方に止まれとか、お忙しい感じで歩いて移動されてる方にはちょっと聞けなかったのが、ゆっくりその展示を見に来てるかなというような方を中心にお答えしてもらったんですけども。

基本的には松本の森林ってどんなイメージ持ってますか、どんなものだったらいいですかというのをざっくばらんにお聞かせいただきました。朝から夕方までですね大体20名ほどの方から意見を伺うことができました。というのが今回のご報告になるかと思えます。

松本の森林ってどんなイメージ持ってますかと中町で聞くと非常にわかりやすかったです。8割の方が、はてなんじゃこれ？は？森って何？ほぼこの回答に終始してしまいました。8割の方はイメージ沸かなかったんですが、4名だけは何かイメージが沸いたということで出てきたのが、遠くに山あるよね。それと1人だけ森と聞いたらあがたの森と答えた方が1人いらっしゃいます。以上終了というのがどうもこのイメージなんだなと。

実際、どんな方に聞いたんだろうってことで、結局これではしょうがないのもうちょっと関係者を増やしました。実際にそこに出演されてる方に聞いてみたり、出展されてるそういうものに興味がある方に。これでもつまらないもんですから、松本市内にお住まいの森林ボランティアなんかをやってる方も含めて聞いてきますと、若干中身が変わってきました。

その中でイメージが沸いた方を何とか3割ぐらいまで増やしたという実態がございしますが、どういふところに問題があるのかなというと、一つは今回この再生会議になる検討会議の時に話題になりました松本市の四賀地区の方で、小学校の子どもたちにボランティアの活動やられてる方が言ってたんですけど。四賀地区で裏にすぐ森がありながら、子どもが誰も森に入っていない。お父ちゃんはキノコ取り行ってるかもしれないけど、私は知らないという子どもが大半。

一方で実際ボランティアやってる方の中で面白かったのは、この方も実は松本の方なんですけど松本でボランティア活動されてない。何でと聞いたら、そもそも入りやすい山ないもん、森ないもん、っていうシビアな回答。

そして、ちょっと年配の方になりますと公共交通機関で森に行けない。森の近くまでは行けるけれども公共交通機関、要するに免許がなくなってしまうと。とても森なんか遠くていけない。私が行ける森は上高地、でもそんなところ行きたくないってこういう意見がございました。

松本はとても森と人との距離が遠いんじゃないか。

香山さんと一緒にお話をしてる時に、街中から 15 分車で走れば森があるっていうのを香山さんキャッチコピーにさせていただいたんですが、逆に車で 15 分となりますと、歩くと 1 時間半とかです。これ位の距離が現実には松本の状態なのかなというのがすごく印象的でした。

そしてもう一つ特徴的なのは、中町の歩行者天国で歩いている方。9 月 26 日ですからそろそろ（緊急事態宣言）解除だよという話があったんですけども、残念ながらまだ宣言が出てた状態です。このうちですね松本市民という方は、全体の 14%です。最後は絶対あの人松本市民だよという方しか探さないようにしたんで、ここまで上がってきたんですが。その途中で出会った方と言えば本当に 1 組だけでした。

ですから、ふらっと集めると 1 組ぐらい、要するに 5%ぐらいしか市民がいない。県民の方が若干いらっしやったという程度で、あとはほぼ首都圏ですから。首都圏の方半分。黄色で書かれた四分の 1 の方は、首都圏以外の関西、沖縄、北海道って感じで。非常に全国から来られ、特に首都圏が多い。

市民は中町を急いで歩いているかどうかで止まってくれそうにない、これが実態でございました。実際に三木さんがこの報告されなかったのは、市民に聞いたかったのに市民いないじゃんっていうのが三木さんの感想でございまして、私自身は逆に遠くの人に聞いてみようと思ったので、ある意味都合がよかったという結果が言えるかと思っております。

それから市民がほぼ歩いていない街、そういったところで歩いてる方に聞くと森って何？という状況。これはかなりゆゆしき問題ではなかろうかというふうに思いました。こちらの課の主催行事ではないんですが、スポーツ推進課さんの方でやっております松本熟年体育大学にお邪魔しまして、少しそちらの参加者と意見交換をする機会ができたんですけども。

非常に特徴的だったのが、会場アルプス公園だったんですね。松本市民の熟年体育大学に来られてるので長年お住まい方のはずなんですけど、アルプス公園初めてですって方がどれだけでてくることか。しかもアルプス公園の下の駐車場から山岳館のあたりから滑り台は皆さん知ってるけれども、その奥の森のエリアは行ったことがない。

こんなとこあったの。こんな森があったんだっていう感想が非常に多かった。結局私たちが入れる森がないよって言いながら、入れる森があってもそれが知られていない、ということが非常にキーワードとしてあった。

一方、アルプス公園に行った方も普段は、松本広域公園の平地の林を歩いていることがあるけれどもあそこじゃ面白くないしっていうようなことで、という言い方をされていて。結局私たち森に近い人間からすると、森ってあるよねって言うんですけども。

広く市民の声を聞いてみると、ほとんど無関心の無関心ではなくて、意識の中に入っていない状態。前回の会議の時に、背景は緑みたいなイメージがあるんじゃないのって言ったんですけど、背景の緑どころか、緑すら入っていない状態というのが市民の、来られてる方の現実ではないかって感じたのは私の印象でございまして。

（香山）

大変興味深い話で、そもそも松本市民っていうのは松本の街を歩いてない。そもそもの問題として、じゃあ松本市民ってどこにいるんだろうって本当に思っちゃうんですけど。考えてみれば、松

本に限った話じゃなくて我々街をあんまり歩かないですね。

実を言うと、日々、仕事に出かけて行って家帰ってきて、テレビみるかインターネットなんか見てるか、どっか食べに行くってことはあったとしても、だから飲食店というのは結構いいポイントだったと思いますけども、街は歩いてないですね。

そういう点で言うと、松本の森林づくりっていうよりもっとその前の段階というか、松本っていうのはどういう街なのか、どういう街だったらいいのかみたいな、そういう意識さえなかなか難しい。

そういう日常の中に我々はいるのかなって考えてみたら、私もこんな何とか委員とかやってるから、松本に来るわけですが、普段は大町で暮らしていますが、大町の街中、実はほとんど歩いてないですね、車で目的地行だけっていうことで、そういう時代なんでしょうね。

そういう形の地域っていうのがあってその周辺に森林があるから、森林なんか本当にすごい遠いところにあるんで、そんな実態なのかな。今、小山さんの話聞いて思いました。

これから先、非常に繋がる重要なポイントが出てきたと思うんですけど、ここの部分について、他の皆さんからも、ご意見を伺いたいんですが。

(渡辺)

小山さんの調査結果を見て、市内の方がそもそも街の中を歩いていなかったこととか、私2、3年前に移住してきた者なんですけど、その時に駅降りて三ガク、山の岳、音楽の楽、学ぶの学で三ガクを謳っていたので割と市民方は、山に興味がある方が多いのかなという印象だったんですけども、実際調査をしてみたところ、近くにあるのは知ってるけど入ったことはないみたいな意見もあったのでそういった部分も発見だったなって思います。

(三木)

我々が街の方を待つと、雨の日だったってということもあるかなと思うんですが、観光に来た方っていうのは雨でもここに来てしまったら観光しなきゃいけないんですけど、松本市民の方は雨の日はじゃあ今日は家にいるかっていう選択ができるわけで、ちょっと天候悪かったのかなっていうのもあります。

先ほど香山さんおっしゃったように、確かに自分たちの街の中を、住民自身が歩くかっていうと、なかなか歩かない。どこのところにもあると思うんですけども、今回私が行ったように市民自身から意見を聞くというか、どういう風なニーズがあるのか、或いはどういうところに答えていかなきゃいけない、この会議で答えていかなきゃいけないのかっていうことを調べるときに非常に難しい。どこに行けば、市民にある意味効率よく、いろんな話が聞けるのかっていうことです。

私、南箕輪村ですけど、市外の者からするとどこに行けばいいんだろうっていうのをまず押さえないといけないというふうには思います。もう一つは、松本市の世論っていうのはどこで醸成されてくるんだろうかというのも、難しい問題かなというふうに思いました。

街の人が、何かの事柄について、例えば松枯れひどいよねとか、これからどうなるんだろうっていう話をする場っていうのはどこかにあるのか。そもそもないのか。それが、山のことに関してじゃなくてもいいんですけども、その松本市の世論ってどういうふうに作られてくるのかがわからないと、この会議の次のステップ、市民が森林のことを真摯に決めていく、関心を持って考えてい

くっていうことは、本当にできるのかなっていうのも、ちょっと検討しなきゃいけないとなというふうに思いました。

(香山)

本当に重要なテーマが見えてきたと思います。この会議は森林再生というテーマですけども、おそらく松本市のいろんな課題に共通することが入ってるのかなという気もしてますが、それを森林という切り口から、どういうふうに取り組んでいけるのかなってというのが、今年度のこの実行会議の中でずっとテーマになっていくような気がしてきました。

それでは私の担当の方からの話をしたいと思います。私が担当したのは、いわゆる林業、木材業の業界、プロフェッショナルの世界。

この松本市の森林再生というテーマについてどんな意識が動いてるのかなっていうことです。去年は専門家っていう会議でしたが、いわゆる事業をやってるタイプの人っていうのはそんなに多くなく、研究者であるとかそういう方が多かったです、よくあるパターンとしては市のこういう市民の意見を聞くというような、集まりをやった場合も、いわゆるステークホルダーって呼ばれる、それなりの仕事として森林や林業、木材に関わっている、そういう人たちが集まる。

よくあるパターンとしては業界団体の代表の方とか、そんなようなことになりやすいんですが、それに近い方たちの話を聞き始めています。今の段階では誰が何を言ったってということがわかるとよろしくないようなヒアリングもあったので、曖昧な言い方をさせていただくんですが、まず大きな前提として、この松枯れの状況を特別に大きな変化だっていうふうに思っていないってことです。

昔から仕事として木材とか森林とかに関わってた人たちにとってみれば、もう松枯れてずっと昔からあって、最近確かにひどく枯れているなっていうのはあるけれども、そんなに衝撃を受けていない。事業として枯れた松の処理をする仕事をやって、その仕事自体は増えてる。確かに、樹幹注入であるとか、防除のいろんなことをやるようになってるんですが、これが大きな変化だっていう認識がないんですね。ずっとあったことの延長にある。そういうのが非常に印象的でした。

去年の検討会議の提言書が出てるってことを、何となく知ってる方もいましたし、ちゃんと読んでいる方もいたんですが、だからどうなのっていう感じで、何かこれで新しいことが始まるとか、そういう雰囲気というのは、どうもその専門家の世界にはないですね。

やっぱり今まであったことが、わかっていることが書いてあるっていう認識であったし、これによって確かに空中散布を止めるってというのは、市民側から見ると大きな政治課題ではあったんですが、いわゆるプロの業界の関係者から見ると、そんなこともあるのかなぐらいの感じで、非常に冷めた感じでした。

私はこんなところに呼ばれるぐらいの人なので、同じ林業の仕事をしてる人間としては、自分の仕事以外の事に割と興味を持つタイプなんです、林業とか木材業をやってる方はあまり世間の事に興味がないんですね。自分の仕事にしか興味がない。で、自分の仕事自体はそんなに大きく変わってないということです。

だから変わる必要があるという感覚もない、ということ。例えば林業不振であるってことも、も

う二、三十年続いてますから、林業が不振であるのは当たり前のことになっていて、課題だという認識はないですね。

その中で今、業界的にメディアを騒がせてる、いわゆるウッドショックという状況があって、これはさすがに、皆さんそれなりに意識してるのかなと思ったら、これもあまり、ウッドショックってのはあるけど結局大したことはないよという、そんな認識なんですね。例えば木材の値段は確かに上がってるけれども、実は昭和の時代はもっと高かった。ここへ来てちょっと上がったっていうけど、昔はもっと高かったからこの程度の値上がりじゃ全然みたいな。そんな感覚なんですね。

私がこの林業を始めて、まだ 27 年しかやってませんので、本当にその木材の値段が高かった、木材価格のピークってのは昭和 50 年代と言われてますけど、そのころのことは知らないんですが、その頃のことをよく知ってる方からすると、ウッドショックみたいな感覚が全然なくて、ちょっと相場が上がったのかな。これで新しい林業を始めるとか、新しい機械を買うとか、全然そんな認識ではない。ということが改めて分かりました。

特に製材業の方は本当にあまり先の事を考えてないですね。来週どんな丸太を引くのかなっていうこと以上の興味がほとんどない感じで、木材の活用が難しいってのは、そこに一つ根っこがあるのかなと気もしました。山で、いわゆる林業の関係をやってる方も、大きな変化してるという認識がほとんどないんです。

その辺が一般市民も知らないんですが、日々森林や林業に関わってる人にとっても、何がどう変わっていくのか、変わらなきゃいけないのかっていう感覚がない。そういうことなのかなと。

つい、こういうことをやって、集まって話をするとすごく関心の高い人たちが集まっているんで、松枯れどうしよう、森林再生への専門家会議の時も、本当に委員の皆さん意識の高い、そういうところで話が盛り上がりつつありますが、いわゆるプロの業界でさえ、そんなもんなんだっていうことを改めて確認したっていう感じがします。

専門家の世界とはちょっと違うんですが、ちょうどこの時期並行して、松本市の事業になるんですけど、山岳フォーラムというものがあって、その山岳フォーラムの中で今年少しやり方を変えて、山ゼミっていういろんな小さな講座をたくさん作っていくっていう企画が今年から始まってまして、その山ゼミの講座の一部を、私も関わってるソマミチという団体で受けもちまして、全部で 4 回の講座をやるのですが、その 1 回目が終わったところです。

そういうところに来る市民の方は本当に意識高いですね。非常に専門的にいろんなこと知っているし関心も高いし、こういう勉強がしたかったって。1 回だけではなくてその 4 回の連続講座全部来たいっていう方が結構いらっちゃって、そういう点ではすごく意識を持って考えてるってそういう人はいると、ただ広くすそ野を広げていくと、本当に薄まってしまおうんだっていう。そういう感じもしているところです。

今後、来年度考えていくときに、提言の中で言っている市民会議っていう、この市民というのは、いわゆる一般市民ではなくて専門家市民として、いわゆる有徳のステークホルダー関係者さんも、当然入っていただくということになると思うんですが、ある業界の方にお話したのは当然そういうところに関して、声をかけていただいたら、協力しますと。そういうふうにはおっしゃっていただくんですが、自分から何かやっていくっていうよりも、そういうところに顔出すのは当然の義理だ

と。そんな印象ですね、当然協力しますよとは言いつつも、今までずっと何十年もそうだったんで、そういうもんなのかなと思うんですけれども。そこに対して、どんな動きをしていけるのかなというのが、難しい課題だなんて改めて業界人として思いました。

(小山)

実際、私自身もそういう立場からしますと県の林務課に所属し、今やってる本業、仕事からしますとそういった林業技術者を育てていくという、いわば香山さんが言われていた専門家を育てる部門に行き、ただ、私自身は本当にそういう現状をしっかりと見てくださいという形で今、講座を組んでおりまして、専門家みたいな方をきちんと育てるだけではなくて、最後はきちんと地域の声を聞いてきてください。

森林とか、林業がとりまくいろんな課題を自分の中で整理して地域のいろんな人に聞いてみてください。今回の課題とこの会議と同じように、要するに私たちがよく知ってる人じゃなくて普段会えないような方、下手をしますと、地域の首長さんですとか。地元の公民館の親方ですとか、いろんな方に聞いてください。そこでどんな問題ありますか、あなたのやりたいこととそろえてくださいって言ってます。

すると、最近出てきてるのは意外と林業のこれからということではなく、場合によっては子どもの居場所づくりであったり、地域の祭りの継承であったり、マウンテンバイクとかスポーツの問題であったり、学校登山の問題であったり、山という切り口、山とか森林林業というのが片一方で片足を突っ込みながら、もう片足が違うところに軸線を置く方が非常に増えてきているなという印象があります。

ですから、両足をそこに突っ込んでいる人だけではなくて、もしかしたら片足を突っ込んでる人のもう一方の片足に少しターゲットを見せていくと、今回も渡辺さんが取材されたそのパターンだと思うんですけれども。私のように両足外にいる人に話を聞くと、今回みたいに、あーあってなってしまうところがあって、この人に指の先を突っ込んでもらうにはどうしたらいいかなっていうのは別で考えなければいけないと思うんですけれども。

勝手な話、違う目線を持てたら、少し今後の方向性とかこの先の話になるかもしれませんが、面白くないじゃないかなっていうのは、今も香山さんのお話を伺いながらそんな印象を持ちました。

(三木)

松枯れそのものも、別に日本国内の松枯れが発生したのはもう随分前のお話で、1970年80年の頃から、西日本地域では非常に大きな被害が出てたわけですね。いずれ、信州の標高が高いところに来るだろうとずっと前から言われていて、とうとう来て、とうとう枯れたというだけで何か新しいことが起こったわけではないと思うんですよ。

ただ、市民の方からしてみれば、昨日まで緑色だったものが突然茶色になったわけですから、森林と直接関係を持っていない、あまり関係持っていない人が気付く頃は、もうすでに手が付けようがない状態になったところで初めて気付くんだということなんです。

そこでようやく人の話題にのぼってきて、意識の中に入ってきて、じゃあ次どうなるのかなという話が出るってことで。なかなか業界の昔からの森林の変化を知っている方と、それ以外の方、市民の方っていう間を、認識の仕方の違いっていうのは、結構大きいなと。ただその認識の仕方が違

うのが別に悪いことではなくて、それはどういうふうな産業でも、産業に深く関わってる人は、そんなこと前から常識でしょっていうことだけど、一般市民からしてみれば、突然時代になった。突然関心がでてきたと思うんですね。そういうことがあるわけですよ。

例えば、水道の業界の方は、地震で揺れれば水が漏れるっていうのは気にされているけれども、実際こないだの関東の地震で市民がはじめて問題点に気づく。その業界の中の人の認識と、一般市民とのギャップが明らかになったところから、ようやく何か動き出すのかなという感じはするんです。

そういう点では業界の中だけの方は何か新しいことがあるんだ？っていうふうに思うかもしれないけど、その方々と、市民が今、関心をもち始めたのだということが、そこで出会うことによってひょっとしたら何か前向きになるのかな、何か変化が出るのかなというふうに思いました。

(渡辺)

先程の香山さんからの報告を聞いて、松本市内の専門家の方の関心だったり意識だったり、私は県外の林業関係でずっと仕事していたことがありまして、県外のほうでもやはり先代の上の方々の意識が先ほど香山さんがおっしゃっていたように、今ある目の前の仕事をこなすことに専念していて、それよりも広い視野の部分、あまり興味のない方もいらっしゃいました。林業の業界についても人手不足だったり、世代交代の部分についても、なかなか進んでいない部分もあると感じました。

一方で、県内で、伊那市の方では、市民の方や、興味ある方が移住してきたり、市内の専門家の木に係わる方の意識の高い地域でもあるので、先行して、先行という言葉が適切かわかりませんが、日本の各地で林業関係のが盛り上がってる地域のを参考に、なにか真似できる良いところはないかと思いつきながら、聞いてました。

(香山)

長野県は森林県だけど林業県ではないということで、県の林務部の方でも、森林県から林業県へという言葉を使って、もっともっと林業やろうよ推進をしようよと、そういうルートは作られているんですが、例えば先日木材市場にも行ったのですが、本当に木材が出ていないんですね。今出せば売れるのと思うんですけど、あまり出さない。

実は私がいた山仕事創造舎もそうですが、木が高く売れるようになったからといって、仕事を急に増やしたりはなかなかできない。そんな現実だと思います。

一方で二、三日前ですね、信濃毎日新聞で赤堀楠雄さんという林材ライターの方が連載を始めて、もっとカラマツに注目しようという内容で。これを週1回の連載で、かなり長く続くものだと思います。

そういうものがあると、新聞ですから、信濃毎日ですから大勢の県民の方の目に触れるもので、カラマツというものが実は、木材の世界ですごく注目されてるんだってそういう情報が少しずつ出ていくと、またちょっと印象が変わっていくのかなって気がします。

そういう動きも、少しずつ始まっているので、今後、それこそいろんなことが変わり始めるタイミングにいるのかなという、そんな気がしています。

そういった意味ではこの松本市の森林再生の取り組みというのも、ある意味で、一つの新しいス

タイトルを作っていくっていうことになればと思っていますので、今後、どんな形で、この会を進めていくのかということ、やらなければいけないんですね。毎回会議は2時間と決めてまして、あと1時間ちょっとですが、後半に何となくぴったり半分で切ることはないんですが、そろそろ、今後どうしていくのか。この会の運営等の来年に向けて、その辺の話に移っていきたく思います。

(小山)

この段階で、もし、YouTubeに何かチャットにコメントが入っていればお知らせいただきたいですし、会場にいらっしゃるからご発言をいただいた方がいいんじゃないか。一度チェックの時間を持たせていただいて、それを受けて、せっかく市民の方に開いてやっていますので、ここまでの私たちが話してきたことについて、皆さんが考えていることを1回この場で出せませんか。その上で、それを受けて、私達はこうしたら面白いんじゃないかという議論につなげたいと思いますがいかがでしょうか。

(香山)

それでは、まず、今、この会場にいらっしゃる方から、何かご意見があれば、せっかく同じ場にいるということなので、どなたかありますか。無理にではないです。

(市民)

今までのお話を聞いていて大変興味深いところが何点もありました。

三木先生が作られたパンフレットをきっかけに、市民と木、市民と森、山が近くなることを期待しております。

小山先生のお話の中では、子どもの居場所づくりとか、公民館や地域課題を集めるってようなお話もあったと思いますが。やはり木とか、山、森について、市民の方の様々な課題意識だったり、どうすればいいのかなとか、松枯れだけじゃないんですけれども、市民の方の素朴な疑問や質問に答えてくれるような機関があればいいのではないかなというふうに思っております。

それが、松本市がそういう受け皿になってくれてたらいいんですけども、なかなか市の仕事も忙しいということもあって、例えば山の相続の話だったり、木を使いたいけれど例えば三木先生がおっしゃったように学校の教材で使いたいけれどその調達をどうしたらいいとか、そういう幅広の疑問質問の課題に相談について乗ってくれるようなそういうものがあつたらもっと市民と木、森、山が近づくのではないかと思います。

(香山)

他の方で何かありますか。特になければ、YouTubeのコメントで何か言ってますか？
特にないですね。

今この段階で一つそういうご意見をいただいたので、今ここでぱっとそれに対するレスポンスのある方をお願いします。

(小山)

今度は委員というより、本業の方の回答になろうかと思います。

県の職員という形での、今のご質問に対しての回答です。相談窓口があったらいいよとのことですが、このことにつきましては、松本市さんにそこまでおんぶにだっこというのは非常に大変ではないかということで、県の組織という形になります。県の林務部内に、こちらの地域ですと松本地域振興局と言いますが、そこに林務課という課があります。その中に、林業普及指導員という役職の職員が在籍しております。

この林業普及指導員という役職は、ちょうど今お話がありました山に関する困りごと、知りたいこと、その他何でも一応相談に乗ってくれる窓口として機能しております。先ほど伺った相続だとか実際の山の場合は、境界はわからないけど、どうやって考え？調べていけばよいのかとか、この辺はどうしていったらよいのか次の山づくりに対しての相談などを受けています。

林道普及指導員についての林務課のPRが悪いという、厳しいご指摘というふうに私は承りましたので、そういったことの窓口がきちんと機能するようにしていきたい。長野県にはそういった広域が10局ございましてその中でも、技術的にわからないことや不明な点がありますと、そこから、私が勤めております林業総合センターに、技術的にこういうのがわからない、法的に分らなければ県庁に聞きましょうという形で、それぞれの担当部局につないでおります。

私自身は林業総合センターで、担当できる部分については私どもの方で答えをするということをしております。質問に慣れた方ですと、松本地域振興局を通さずに、直接私あてに電話をいただくという方もいらっしゃいます。

それも私自身としては受けておりますが、組織といたしましては松本地域振興局の林務課普及係という係の方にお尋ねいただきますと今のご相談に対して、窓口ルートはできてます。

一方で、そういう素朴な疑問とか大事だよねってのは今後の方向性の中で考えたいと思います。

(香山)

私も林業のプロとして県の出先の普及係の方に、とてもお世話になっていますが、やはり「林業」ってついているので、林業に関係ない人にとっては、そこに行ってもいいのかなって話になっちゃうんですね。そう思いませんか？

私個人的には、全然まだ看板もあげていないですが、木と森の相談室っていうタイトルで、何か仕事をやりかけているところなんですけど、どんなふうにやったらいいのかってことで、模索中ですけども、県の方に本当私とてもお世話になりながら言うのもなんですけど、林業と関係ない市民の人にとってはちょっと難しいのかなってそんな印象は持ちますね。

(小山)

仕事の方に立ち返りまして、ご相談お受けしたいと思いますが、実際そういう形で、朝日新聞のBe!という、いろんな相談窓口についての回答のところにもたぶん本日付で私が載っております。こういった皆さんから頂いた質問の中で、どういうふうに答えていいかわからないよという県の職員からの相談があったものの中で、これって毎年来そうだから、簡単な資料を残しましょうということで残してましたら、20年ぐらい前に書いた資料を見た朝日新聞の方が私に電話してきたという、非常にびっくりしたケースがありましたので、そういった意味で気楽に聞いていただける機関として、林業と名前がついてるんですが何とかそこが皆さんに通じればいいなと思っております。

(渡辺)

普段、行政書士で相続案件を扱っているのですが、先ほど相続の事で分からないことがあった時の相談窓口が欲しいとのご意見もいただきましたので、相続案件もしている中では先代の方が森林、山を所有していたのですが、境界線がわからないとか、どこに親が山をもっていたか把握できていないという意見もあります。

そうした中で市役所に電話をしまして、林業関係の部署を聞いてそこにお客様を繋いだりするのですが、小山さんからも意見がありましたが、そういったパイプ役、お客様が山の相続について困っていることがあった時などに、話をつなげられるような仕組みができたら良いと思いながら聞いていました。

(三木)

今のお話は、非常に私は面白いと思ひまして、公民館長から話を聞くと山の問題っていうのは、木とか林業の問題ではなくて、子どもの学校の話だったり、あるいはうちの山を勝手にバイクで走るとか、そういう問題かもしれませんが、その森林の問題、森林の中で出てくる色々な「これどうしたらいいの」っていうのは、樹木とか林業とか関係のないものもあるのですよね。

多分、ほとんどの人が森林に関する何かしらの課題というか問題っていうのは、そういうことがほとんど大半で、それを市とか県とかのところに話しに行こうとすると、確かに市民がどこに話をしに行けばいいのか、分からないということがあると思うのですよね。

林務部って書いてある、ちょっと違うよなというところ。ホームページを見ても、例えば森林計画はこちらとか、そういうことが書いてあると「これは違うな」と、そう思ってしまうわけですね。

それは仕方がないところではあって、例えばこれから松本市の森林再生市民会議っていうのを考えているときに、そういう従来の言ってみれば行政の縦割りの仕組みの中と大分違う形で、その森林全般のことを、その市民会議の中に集めていって、その中にプロフェッショナルがいて、それぞれを適切な専門がいる部署に割り振りをして、解決していくというようなことができると、ぐっと面白くなるのじゃないかという感じを受けました。次回難しいですよ。

松本市はどうなっているのかわからないのですが、市によっては例えば木の話と、野生鳥獣の話が別な部署だったりすることがあります。あと例えば、山に不法投棄がされていることは、別の部署が担当していることが結構あって、だけど市民が森林を見るときっていうのは、それを分離されても全部がその森林の問題のはずなのです。そこをこちら側がちゃんと捕まえられるかっていうのは、面白くなるかどうかのカギなんじゃないかという気がします。

(香山)

信州大学の森林科学というテーマで研究されているわけですが、信州大学の森林科学と市民との接点みたいなものって何かあるのですか。

(三木)

市民との関わりですか。もちろん、たまに市民の方や、長野県民の方々から、これはどうしたらいいのかというような質問が私の研究室とか他の研究室とかのところであって、話がお答えすることはあります。

市民向けの公開講座みたいなものも開いていますけれども、普通はそのぐらいですよ。

その森林に関わって大学が一つのプレーヤーとして、地域の森林の姿を作っていくのだからというふうにはなかなか、なれない感じを受けますね。難しいテーマです。

(小山)

でもそこって改善できるのではないかって思っていたのですけど。実際にこういう話が今のごみの話、それから公民館の問題だって考えて、私自身がいろんな市町村さんとお話をしますと、意外と小さな町村の方が、そういうことってフットワークが軽いな、なんでだろうと思った時に、小さな町村さんの方が、例えばごみ問題であっても観光であっても健康問題であっても、実は担当者1人みたいなことがあります。だから仕事としてはとても大変だけれども、小さな組織になればなるほど1人で抱えている問題はいっぱいあり、横に幅広いので案外とそこに情報が詰まっていて、結果として、それも森の問題だろうねっていう意識をお持ちなのではないかと思います。

具体的な場所はお話ませんが、小さな町の方と今年ちょっと関わらせていただく中で、非常に森が多い所だから、町としては資源が森しかない。町をあげて森をなんとかしましょうというお話をさせていただいているのですが、先程から話していますがそういうところも、フットワークはすごく軽いです。特に町村の職員ですと、去年まで税務担当で税金の取り立てをしていても、今年からは森林関係担当になることがあります。異動したら次は観光もやっています、というふうにいるんなシーンを通して、

そうした横串の組織となります。特に私ども県ですと、林業職なら林業マンしかない。国もそうなのだと思います。しかし、市町村になりますとそこは横串をさせられているという方も比較的多いのではないかと思います。

そうすると、松本市は中核市ではありますがけれども、やはりその横串をさせる部分をもうちょっとこの会議の中に取り込めないのかな。

信州大学さんでもどうしてもそのやはり専門教育なので、そこは、ある意味で横串をさせてというのは失礼な話になる。僕は逆に香山さんに信州大学どうなのって話は、逆に大学の位置づけとして失礼じゃないかなというふうなことを言いたいのですけど。一方で行政も、組織であればある程度横串で解決できることってないかなということもちょっと思いました。

(香山)

林業の専門の一つ、林業事業体、あるいは森林組合というところも、地域の森林所有者の方と、あるいは地域の方と密接な所で仕事しているものですから、いろんな形で市民の窓口的な役割を果たさなければいけないと思っていて、実際それぞれの組織によってその関わり方の程度の差はあるのですが、なにかしら、もうそういうことやっているのですね。

例えば木造に関わることで言えば、家を建てる仕事をしている工務店みたいなところでも、地域の方と関わっている、そういうことを割と単発的ですけどやっているところもある。

特に森林組合に関して言うと、森林所有者の組織という部分があって、そもそも組合員っていうのは、最も気軽に相談に行ける相談先が森林組合ということになっているので、そういういろんな関わり方もあると思うのですね。

ただ、そういう森林所有者とかではない人にとっては、遠いのかなっていう気がしていて、それ

でも市民レベルで松本市の森林再生を考えていこうっていう時には、既存のものにはないものを、何か作っていかなくちゃいけない。ただ、せっかく既存のものがあるので、それを生かしていくっていうことなのかなあと、まるっきり新しいものを作ることではなく、そんなような気もしているところです。

松本市は組織変更がありまして、耕地林務って農業と林業を一緒にした農林っていう枠組みだったところから切り離して、環境エネルギー部の中の森林環境課になり、そういうちょっと大きな組織の構造が変わった中で取り組みをされていて、それぞれの市町村の事情、いろいろな経緯があると思うのですが、松本市の今の行政の枠組みがそういうふう从今年から変わっている中で、職員の方もどんな対応をしていくのかということ、まさに始まったばかりで試行錯誤だと思うのですが、そもそもこの再生実行会議自体がそういう松本市の機関ですので、松本市の新しい取り組みの中でどういうふうにかけるのかっていうところを、考えていかなければいけないところだなと思っています。

それでは後半戦。今後のこの会議の運営の中で、どういう方向性にしていこうかって1回目の時に、そういう話をして、じゃあまずはオープンに意見を聞こうよっていうところで、その件を受けて、3、4、5とあと3回の会議の中で、どういうふうにかつめていこうかなっていう、大きな枠組みの話はしているのですが、実際に動き始めた中で、その辺について何かご提案とかありますか。

(小山)

1点だけ、今日のキーワードとして非常に面白かったのが、市民が関心を持ち始めている。逆に言うと関心を持ち始めただけ。そして関心を持ち始めた方はかなり強い意識を持って、こういうことに参加されているっていうのは、結構大きなキーワードではなからうかと思います。

一方で、まだ一般の人はまだそこまでいってない。その中で、じゃあ松本市の森林をどうしていこうかというときに、市民の方が関心を持ち始めたっていうことがあり、この関心は広がっていく方向へ行くのではないかと、逆にポジティブに考えればそうなる。そうすると、僕の方からって素朴な疑問って誰が答えるの？どうやって進めていこうかっていうようなシステムを考えていかなくちゃいけない。だとすると今どのぐらい市民が関心を持っているのか。当然、このことについて4人はまた更に、もうちょっと人から話を聞いていこうねってストーリーにはなっていると思うのですが、もう一方で市役所の組織がそこまで動いてきているとすれば、市役所の中にもいろいろと、私たちも含めて、外部の人が関わる組織ってあると思うのですね。私自身も、文化財の方に関わっておりますし、それぞれ皆さんが、それぞれ何かしらの会議に関わっているということは、市役所の組織だけでも、ものすごくいろんな会議があるのではないかと思います。

そうしますと、先ほどあったように公民館の方とか、観光、産業振興、ごみ、健康、どこかで森林と繋がりそうなものってものすごく沢山あって、ちょっと話を聞いてみるとそういう人とみんな片足突っ込んで変わってくるよね。だとすると、そちらの方の会議ではどんな森林というキーワードが話されているのか。少しそのあたりを市の方に、調べていただけないか。結局、今回三木さんがいろんな方に聞きに行ってもなかなか進まない。一方でステークホルダーの方にも聞いていかなくちゃならないよねってなっていた時に、ステークホルダーの方、いろんな意味でのステークホルダーの方がどの程度森林に、興味、関心を持っているのかという部分が少し調べていただけないか。

最近、今日もそうですけれども市で行われているオープン会議、議事録をある程度だしていく、場合によってはクローズかもしれないですけれども、市役所内としてはそういう書類は残っているのではないかと、何年間かわかりませんが行政の規則上何年間かは残っている。

こういった問題が出てきたのがここ2、3年だとしますと、ここ3年間ぐらいの期間に市で行われたすべてのそういった外部の方を入れた会議、どれぐらいあって、その中で森林、樹木、要するに私たちが今回話題にしたような言葉がどういう文脈の中で語られているのかというキーワード出しを、ちょっとお願い出来ないか。

私達は私達で調査していくけれども、いろんな分野のステークホルダーがどれだけこういったものに意識を持ち始めたのかを、1本入れることで足し算ができないかということちょっと思ったのですけど、いかがでしょうか。

(香山)

非常に興味深いですね。市全体ということなので、この森林環境課という、まさに総合戦略室的なところになるかと思うのですが市での対応は可能ですか？そういう調査は？

(事務局)

会議体での、ご意見をということではありますが、松本市では、昨年度一年かけて、新たな総合計画、これは10年の計画基本構想2030と、5年計画第11次基本計画の策定をして、この8月に冊子もできております。また皆さんにお渡しできればと思っているところですが、その計画を立てるにあたって、21名の委員の方にいろいろご意見をいただきました。その中に昨年度の検討会議の、座長で森林再生に関する提言いただいた時の原薫さんもメンバーにいらっしゃって、原さんには森林再生や、環境といった面からのご意見をいただいて、この大きな市の一番の上位計画である総合計画も策定しています。その中でご意見をいただいているのですが、他の会議でいくつか資料がある中で、森林とかそういうところに特化した話題があったかということ、今まではなかったです。

今後、基本計画を立てていただいた委員の皆様には、引き続き市の松本「シンカ」推進会議ということで、この計画がどういった形で進んでいるとか、そういったことの評価、検証をしていただく立場として、委員の皆さんは継続しておりますので、そんな皆さんから、もし機会あればご意見をいただくことは可能かと考えたところでございます。

(香山)

いろんな形で、情報のストックもあるかと思いますので、そういう情報も我々この実行会議にいただいて、いろいろ参考になるのではないかと思うのですけれども、小山さん、今のようなお答えですが。

(小山)

多分一番面白いその計画そのものとして案文が上がってきたその前の話っていうのは結構重要になってくる。ですから、実際にはそういうことになりますと個人情報を含んでいたり、いろいろ都合が悪いっていうのも、都合が悪いっていう言い方はすごく失礼な言い方になるのですけれども、

ちょっと市で対応できることではない、個人で考えていただいた方が良いとか、そういった様々な事情があると思うのですけれども、たたき台に上がってくる段階は非常に面白いかなと、ちょっと思いましたが。

以前から文化財の方に関わらせていただく中で、市の文化財の総合計画を作っていく中で、私たちの街の宝物探しをやっていた時に、かなり森の情報とか、木の情報って入ってくるんですね。一方祭りであったり、民族であったりという情報が、あの時にかなり引っ張られているなっていうのを、サーッと見たときに私の印象で持っていたわけですから、そういったいろんな対になっているところ、例えば松本の環境会議の中で環境問題と、地球温暖化と例えば森ってどういうふうに考えられているのかですね。どういう会議かは私も全部がわからないので、どういうふうにそういう論議でそれが合わさったことで多分総合計画になっているとは思いますが、その上下関係も含めてかなり、細かいところまで文脈追ってくると、もう少し私達のこの三木さんが作っていた松本の森林に対して気になっていることとか、どうなるといいとか、想いが見えないだろうかってのは、ちょっとイメージとしては思ったところでございます。

(事務局)

これからの話を先ほどさせていただきましたが、この総合計画、基本構想と基本計画を作るに当たって、委員の方の意見も、都市計画の中に少しご意見をいただいたことはございます。

その中には森林資源がまちづくりに活用されていないというようなこと、先ほどお話ありました松枯れの関係ですとか、この森林資源をまちづくりに生かし切れないということ。それから市街地の中で緑の維持が出来ていないとか、そういった多々意見はあったことは事実でございます。

これまとめたものがございますので、またこの実行会議の中で、参考資料として提示させていただけたらと思います。また他の会議もですね、そういったものがあれば、少しちょっと調べさせていただいて、提供をさせていただければというふうに思っております。それから繰り返しになりますが、先ほどもあったように今後ということになれば、そういった場もありますので、そういったところでも少しご意見いただくことが可能かなと思っております。

(香山)

非常に松本市のそういう、すでに集まってきているいろんな森林とか木材とか環境とかっていうキーワードを拾い出していただくことは、具体的にこの議論を進めていく上で非常に重要な資料になると思いますので、ぜひ、かなり幅広く、本当にまとまってないようなことでいいですので、拾っていただければというふうに思いますので、よろしくお願ひします。

(三木)

そういう点で言うと、我々がですね、こういうふうなところで、森林の話題が出ているはずなんじゃないかみたいなのを、幾つか出していくっていうので調べていただくというのもありかなと思っております。

例えば、ただ再生可能エネルギーに関して、市町村ごとに計画を立てると思うんですけれども、そうすると、例えば木質バイオマスをもろろんFパワーのように発電で使うときもありますし、薪ストーブとか、ボイラーみたいなものの普及を図るというふうな、木質バイオマスの利用増進って

いうのがありますよね。

それから、山の所で言うと太陽光発電とか風力発電の規制がその開発規制、あるいは開発促進か、そういうふうなところをどう考えるのかっていうのもおそらくその中で扱うというはずです。その中で議論されていることと、例えば森林再生実行会議、あるいは市民会議の中で議論していこうとする方向が、まったく逆の方向を向いていると面白くないわけで、そこを強調しながら、例えば木質バイオマスの利用増進を図るためには、じゃあどうしていったらいいのかっていうのを、こちらの方でも市民と一緒に考えるというようなことができるかと思います。

他にも、例えば野生動物の要するに鳥獣法。管理計画か、あれは市町村ごとになってるんじゃないかと思うんですけど。ああいうふうなものとの関連で、ここはバッファゾーンにするために、明るい林にしましょうと、そういうふうなゾーニングがなされてくるかなと思いますし、長野県だと信州やま保育っていう形で、県の認定ですけど、結構市町村の中でもやま保育。自然保育が実践されているところがあって、そういうふうなものがじゃあ山、自然を使いたいんだけど、実際に使いにくいよとか、こうして欲しいというふうなニーズっていうのはそういう関連の会議があるかって部署があるのか、そういうところで、おそらく扱われているんだと。

市民生活の中でいろんな形で森林と関わるものがありそうだというのを、幾つか我々が考えればですね。こういうことも関係あるんじゃないかとか。こういうところで、ひょっとしたら、議題として扱われていないか。そういう中で関係諸団体とか、当事者から情報が集まってですね、こんなこと困っているんだ、なんとかしようっていうふうな形で議論されてないかっていうのは、すでに出ていると思いますので、そういう調べ方をこちらで考えて言い合いするということもありかなと思います。

(香山)

まさにそうですねどこに何があるかっていう予想がかなりたてられたと思うので、特にこの森林に関係するところっていうのは、市だけじゃなくて県の部分かなりありますよね。だから県の方でもどんな動きがあるのかってことについても、地域振興局レベルでだいたいそろそろような気がしますので、その辺もちょっとこちらから、取りまとめて、一応事務局通じて、県の地域振興局の方に開けていくということもありかと思います。

それと、松本市にも国有林も含まれていますので、国有林はですね民国連携という、一応そういう考え方があって、ちょっと前まで民有林と国有林と県との共同の会議みたいなこともあったんですね、今止まってしまっていますけれども、これも無視できない部分だと思います。国有林で言うと、ここに森林管理署もあって、国有林の中の松枯れみたいな現場もあつたりしますんで。

そういういろんな繋がり方っていうのを、リストアップして中身がどんなものがあるのかと。考えてみたらそういうものを全部まとめてみたっていう人いなんじゃないと思うんですけど。そういう点で言うと本当に森林そのもので言ってもそうだし、その周辺地域政策がいろんなところで、森林とか、木材とか、接点のあるものもあるはずなので、ちょっとそれを網羅的に、またその生の情報をいただいたところでそれを編集するっていう作業が、我々の宿題になっちゃうんですが。それをやっていくってそれをしないとおそらく、来年度に繋ぐことができない。

やはりこの実行会議って、何でたった4人やってるのっていう、これ4人の意見は集めようということではないんですよね。この4人でやれば、本当に幅広い色々なものが集まってくるんじゃないか。そういう構想の中でやってることだと思いますので、ぜひそれは進めていく方向ですね。そうすると、ひとつやることが見えてきました。

今後の方向性、さらにもう少し煮詰めて行きたいんですが、あと何かございますか。

(三木)

いろんな課題が、市の中であるだろうと。それは市の中で、一様に分布、均等に分布しているわけじゃなくて、ここの地域ここの山ではこういうふうな、ここの地域ではこういう感じっていうのはあると思うんですよね。あるところでは松枯れかもしれないし、あるところでは最近増えてきたキャンプをたくさんする人と、地元の軋轢だったりですね。その地域によって問題のありかたが違う。私、松本の地理に詳しくないもんですから、それを地図の上に落として、ここではこういうふうなもの、ここではこういうふうなもの、それを次の会議で解決していこう、解決の方向に持っていこうみたいな。フルに描けるとかなり取り組みやすくなるんじゃないかなというふうに思います。

(香山)

そういう地図づくりですね。これすごく面白い仕事になりますね。松本の森林に関わる課題のマッピング。よく森林の世界でのゾーニングってことをやるんですが、それよりもちょっと下の部分ですね。ゾーニングってのは森林管理をやるっていうことが前提になった世界で、それぞれの森林こういう課題がある。例えばこの森林は防災目的だ、この森林は木材生産だって言うんですけど、もう一步、下の部分で我々の生活の中に関わる森林としてそれぞれ地域地域の特性で何か課題っていうものが上がってこないかなってそれをマッピングしてくという、そういうアイデアですね。

(小山)

先ほどちょっと三木さんが、最初に発言されていた西山は行くところがあるけれども東側行くところがない、すごい大きなキーワードだ。一方で、じゃあ入れるところでという話になってきますと、つい先日あった、浅間温泉のところスズメバチに園児が刺さされたという事故ありましたよね。大分大きなニュースになりましたけれど、あそこは逆に東山の中では入れる山として、地元の方も一生懸命整備されていたんですけど。逆に言えばそういうリスクがあって、もしかするとそれが引き金になってあんなところ行けないよって話になってしまうと、せっかく近づけてきた山との距離が一発で駄目になってしまう。そういったところも含めていうと入れる入れないという問題と、入ったけどリスクの問題いろんなことが出てくるかもしれない。

少なくともそういったマッピングをしていく、私自身も、松本の森林って入るとこないよねっていうのはすごいキーワードとして出てきましたので。

正直なこと言いますと、そういうふうに考えてみますと、(塩尻市)片丘にあります林業総合センターって、よくも悪くも松本市民の皆さんで支えられてるんですね。松本市民の皆さんが森に親しもうイコールうちに来ていただく。私どもとしては年間3万人のお客さんを招いているんですが、かなり松本の方に来ていただいて、うちはそういう意味からしましても松本に入れる里山がいっぱいできますと、うちの収入は悪くなるかなと冗談半分にも思えますけれども、ただ、そういう流れ

がもし私どもの施設に来ているのだとすれば、これは松本市として、市の境から2キロ南に行かれるということが、いいことではないんだろくなっているふうに思いますから、そういう地域の課題をマップ化して、絵に落とししていく中で、こういうところだったら新しく入れる森林できるんじゃないかな、こういうところだったら松枯れが問題だから松枯れ対策をやる森になるんじゃないか、こういうところはクマが出てくるから緩衝帯みたいなことをやるべきではないか。

要するに絵が少しずつ描けてくれて、その絵がふわっとしたものが出来てきますと、今度は地元の方が初めて自分のこととして、いやうちもクマ困ってるとか、そんな人に入られたらゴミ捨てられるじゃないかって、見える化による課題が出てきて、じゃあそういうのまとめていったらどういうふうになっているといいかなっていう、具体策に繋がるのかなっていう気がしましたけど。

(香山)

渡辺さんどうですか。そういうものがあれば、色々な人動きそうですか？

(渡辺)

あとはマッピング、地図に落とし込むっていう部分も、私たち委員が作るのではなくて、何かこう市民の方を交えたワークショップ的なもので、参加型にするともっと面白くなるし、先程、小山さんがおっしゃっていた自分ごととしてとらえて、自分でどうしたらいいか、問題ってどこにあるのだろうって考える場所にもなるんじゃないかなって思いました。

(香山)

まさしくそれが来年度の一つの仕事になりますね。つまり今、提言書の中で市民会議っていう仮の題がついてますけれど、集まって会議したって、なかなか出てこないと思うんですよね。その会議って一体何なのかっていう仮称会議ですけども、言ってみればそういうワークショップ的な、実際動いていくことで、それを松本市の市役所でやるのではなく、おそらくそれぞれのフィールドでやっていく、そういうことなんだろうな。

それは何をやればいいのか、それぞれの地域課題について考えるって、例えば自治会レベルで集まって、偉い人が話しても、やっぱりなかなか出てこない、松枯れとかって非常にわかりやすい問題は出てくるけれども、実際子どもが、子ども連れが入っていける森ってどこにあるの？ってテーマになったときには、それぞれのフィールドに行かないと、おそらく課題としてはないだろうなど。

市街地にすぐ近いところで言うと今アルプス公園の話もあって、アルプス公園は本当に気楽に散策できる森として利用されている方も実は多いらしいですよ。初めて行ったっていう話もありましたけど、そういう人たちにとってのアルプス公園っていう、一種の里山なんですけれども、それが今後どういうふうにな、変わっていくのか。実をいうと、これだけの大きな市ですからそういうところってそこら中にあるわけで、なきやいけないわけで、それが今どうなってるのか、例えば、市民の森的なタイトルのついた森って、結構あるんじゃないかと思うんですね。

一か所知っているところありますが、市民は誰も行きません。でもその隣がキャンプ場で、キャンプ場は大変にぎわってます。そういうところが三城のすぐ下にありますが。そういういろんなところがあるはずなので、そういうところをフィールドにして、市民参加のワークショップみたいなことをやって非常にアクティブな会議になりそうな気がしますね。小山さん。

(小山)

なんかそこへ向かってどういうことをやっていったり、だから多分次っていうのはそういう今回スタートを切っていったいろんな声を聞くという、こちらの4人で頑張れるところそれから市の方をお願いする部分も合わせて、1回中間の、課題のリスティング、リストアップみたいところで、もし可能であればその来年度香山さんが言われたようにそういうワークショップ型でやればよいねというところまで行くのであれば、どこでもいいとは思いますがそういう課題がかなり見えている所に限定をして、1回集めて、いわばモデルケースのようにワークショップを、きちっとしたものは多分できないので、こうやって人を集めてみんなでやっつけて議論をすればいいよねっていうところまでどっかの会議でできると。

これをくみ上げていくことでこっちへ行くんじゃない？というそのやり方とか使い方とか今回すごくどうやって、松本市が市民の手で何ができるのか、どうやって決めていくかというプロセスの部分の、モデルプランみたいなのに行くのになってくるとなんか5回目に出てくる結論がカッコイイなんかきちっと製本された報告書じゃなくって、こんなことやるんだね、あそこでやっただけじゃなくって、このぐらいの地区割りでやっつけてくんだねっていうイメージになってたら面白いかなっていう気はちょっと今、フワッとなんか初めてなんか最後の絵が見えたって気がしましたね。

(香山)

そのフワツとの部分を、この今日残り少ない中で具体化するのには多分無理だと思うんですけども、また3回目までの間に、ちょっとどういう具体的にね、どんなデザインとして、今言ってみれば、パイロット的なワークショップですよ。

そんなことが本当に、実行会議っていう枠の中でできるのかどうなのか、来年待つこともないわけで、今年できることは今年やっいたらいいということだと思いますので、これ、少し検討できると思います。

こうやって話をしていると、本当に私が考えてないようなことがどんどん出てくるので非常に面白いんですが、この森林再生実行会議の方向性としてそういうものが3回、4回に配置されていく、5回目というのはどう考えても、一つの、まとめをする会ということになるので、がつつりここで議論しつつで、終わった後に本当に報告書みたいなものを作る作業というのは、それはまた全然違った形で、それぞれの人がそこに向かいつつ、事務局の方たちと一緒に本当の、何て言うんですかね？ワークをするとかね、そういう部分が多分5回目の後に、残るんじゃないかと思いますが、5回目の会議自体は、とにかくこんな成果物を作ろうというそのためにほぼ使われる。

そうすると3回目と4回目っていう中に、今出てきた課題をどう配置していけるのか。で、もう会議では作業ができないので、それぞれ作業したのを持ち寄ってという。そんなことに結局なるわけなんですけど、その作業の段取りをちょっとしていかなきゃいけないかな？忙しいのに大変なんですけどね。

そうなってくるとですねスケジュール的なことも少し話をしなきゃいけないんじゃないかと思うんですが、最終回はともかくとして、3回4回、っていうのをどんなスケジュールで、立ててい

けばそこに乗りそうですか。また、1回目と同じようにですね私はこれをやるんだっていうことをちょっとイメージしつつ。

(小山)

当初の予定だと3回、4回ってどんくらいスパン空いてましたっけ？2か月、2か月でしたっけ？だからあと2か月後に3回をやるよっていうふうに考えると今日、先ほど全体に出て来たいろんな関係性情報を集約して、課題を整理するところでもしかしたら3回かなと。

3回の段階で出るものが全部出てきて、後からフォローするのは当然あるんですけど、出てきて、どっか面白い地区というか、ができたならそれをパイロットを4回目に仕込もうと、もしなければどういうふうにパイロット地区なり、そういうやり方をやっていけばいいんだろかっていう、いや第4回はいわば来年に向けて何ができるかのことを考えて5回、第3回が、全部の課題をいわば1回、ブレインストーミングじゃないけれども、さらせる限りさらしてみようというところでいいかなと。で、そこもさらすだけさらすので、場合によってはこういうふうにオープンでいいかなと、市民を巻き込んだオープンにしておいて、あとさらした中で、私はこれがしたいと付箋がパタッと増えていいのかなって、というのが3回で。

じゃあそれを要するにどう具体化していくのか、どういうまとめにしていくのかを真面目に考えるのが4回で、こうやってまとめてるけど、何か足りないことか必要なことがありますかってやってくるのが5回でそうすると、何とかまとめができるかなという気はしましたけど。

(香山)

そういうデザイン今のところそんな感じですね。1回目の時よりはだいぶコースが絞られてきた感じがします。一方でやることがすごく増えちゃってるんですが。そうすると、あと3回のところの枠組みが今、1回整理されたところですが、1回目で始めた活動自体も、これはそれなりに続けていくということですね。それについてどうですか？ちょっとこのままだと進まないなっていうような課題とかありますか？

(三木)

私、市のいろいろなところで、やっぱり話を聞いていかなきゃいけないなと思ってます。それ自体は、続ければいいのかなと思ってますが。

あと1点ですが先ほどの課題出しの、3回目に課題出しをして課題が何かをはっきりさせて、パイロット地区で、何かのワークショップをするのと、同時に、市民のいろいろな人たちに、森林についての関心を持っていただくためには、何とか講座みたいな形で、おそらくこれからそういうものを持っていかなきゃいけないと思うんですね。

それは例えば、山林相続がどうしたらいいの講座みたいなのもいいと思うんですけど、何か蜂が出てきたらどうするの講座とか。市民が森林のことを考えられるようにするための、どういうものを、市とか公民館行事とかで提供すれば、パッとでもたくさん人が来てくれるようなこと、あるいは市民が関心を持つのに役に立つだろうかっていうことを考えるのが、それも第4回ですかね。そういうところに入ってくると、来年度あるいは再来年度、なにをしていくのかというのが明確になっていくのかなと思います。

(香山)

おそらくね4回目にパイロットワークショップそのものができるかっていうと、いろんな制約もあるので難しいかなっていう気はしますけれども、今、三木さんのお話にあったように、具体的に市民に対してのアプローチのリストアップ的なことは、その辺でできますよね。その上で、最終的には、去年の提言を受けてという部分になるので、去年の提言の中の、この部分が具体化されるんだってというのが、最終的なこの報告の中には、対応がわかる形のものになってなきゃいけないので、今、こういう話をしていくとどんどん話が拡散するんですが、拡散させつつもあくまでも、もとは提言なのでその提言の中にどう繋がっていくのかっていうそういう整理もしなきゃいけないと思っています。言ってみれば私座長というのは編集者みたいな役割なので、その辺を調整しつつ、最終的なドキュメントづくりについて言うと、その編集作業っていうのが、去年もですね、すごく大変だったんです。

結局のところあれだけ大勢の人たち専門家が非常に高いレベルの議論をしたものを、一つのドキュメントにまとめていくっていう、去年ちょっとスケジュール立てを間違えまして、もう最終の時に全然間に合わなくて、終わってからオンライン会議ではなかったんですけど、とにかくメール回しあって、それぞれの人が文書書いて、それを編集して、すごく短いスケジュールの中で無理矢理やって、事務局の方に大変ご苦労かけて、そういうことがあったんで、もうちょっと早め早めに動いて、こんな形になってくるだろう。で、結局必要なのは最終報告っていう報告書ではなくて、報告書自体はある意味、提言というのが出てるんで。

来年なにをやるのかっていうそういうメニューづくりですよ。

そこになってくると思うので、そういう意識でこうやって会って話をすればどんどん話が拡散するんですが、拡散させつつも、落としどころはそこだよというところをちょっと確認していきたいというふうに思います。

それ以外にそのスケジュールを見つつなんですけれども。こんなこともやっという方がいってこと。一つありましたね、オフラインというか、前回の会議から今日に至るまでの間でも、我々のちょっと話したことで、この会議の中身を伝える伝え方についてはちょっと意見交換したことがあったんですけど。もともとの提案は渡辺さんから出たと思うんですが、グラレコの話。

(渡辺)

グラフィックレコーディングと言って、この会議自体、今日は YouTube という形と、後は口頭でっていうスタイルなんですけども会議を進行しつつ、意見を吸い上げて、それを図や絵で分かりやすくまとめる、いわゆるデザイナーではないんですけど、そういう方がもし関われるのであれば、会議を進行しつつ、その場で書いてくださったりだとか。あと今日は2時間っていう枠の中で話をしているんですけど、この会議に予定の都合上参加できなかった方に対しても、分かりやすく見える化できるような形で残せたり、まず知ってもらおうという部分に対しても見やすく分かりやすくできたらなと思います。

(香山)

という話をしてたんですねグラフィックレコーディングっていうのは、今、会議の進行する中で、会議の報告書としてっていう、もう会議参加してる人たちが自分たち何の話をしてるんだってことを、確認しやすくする方法として実は開発されていて、その上で、それをまとめると会議にいなかった人にとっても、何やってるのって、直感的にわかるっていう手法で、何かそういう方法が取り入れられないかなという話を、1回目の会議が終わった直後からしてたんですね。

ただその専門家がすぐ近くにいないこととか、それなりの費用もかかってくるということで、具体的にどうすればいいのかってちょっと、その先進んでないところあるんですが、一つの方法として、せっかくなので、引き続き検討しつつって感じで。今日もこんな感じで、初めて YouTube でライブ中継するっていうことは、一つの試みとしてはあるんですが。

実際に、今日、今これライブで見ておられる方ってそんなに大勢じゃないんですが、これ、録画はされて公開するわけですよ。

そういうことですので、今日この場にいらっしゃらない方でも、録画で見ることができます。ただし、2時間の録画を見るってのやっぱり大変なことなんですね。

あるいは議事録という形で文字起こしもされて、これもまた大変な作業なんですけど、事務局の方で毎回やっていただいて、文字が出ますけど、これもまた2時間の会議の議事録読むって、それも大変なことなんですよ。

そういう点で言うとそのやってることを伝えていくっていう、それもあるべくリアルタイムに伝えていくっていうことを、もっといろんな工夫をしなければいけないなというのは感じてるところです。

始めてもう2回も会議をやった中で、そんな話をしてるんですができることはやっていこうということで、第3回に向けて、じゃあ第3回の会議のやってることの広め方っていうことからちょっと、予算だか何だかいろんな制約があるんですが、何ができるのか、もうちょっと突っ込んで考えてみたいと思います

そうすると日程の話は最終的にはこの会議の最後で決めますけれども、残り10分ほどなんですけど、そのほかに何か、課題というか、実はこんな話題がという持ってきたものがあればお話いただきたいんですが。

(三木)

研究側の話で言いますと、松本市のやり方っていうのは多分、全国でも他にない新しいやり方ですけど、全部が全部その全く新しいことを我々が一番最初にやる必要はなくて、他の自治体のやり方を学ぶというか、考え方を学ぶっていうのも、ありかなというふうに思ってます。その中で、今年に出た本ですけど、柿澤宏昭さんという北海道大学の人が編著になって作った「森林を活かす自治体戦略 市町村森林行政の挑戦」という本が出てるんですけど、ある研究チームが、全国のいろいろな市町村で取り組まれてることを、かなり網羅的に調べて、どういうところがまず優れているのか、あるいはどういう問題を抱えているのかっていうことを、かなり詳細に分析した本です。

この中で、滋賀県の長浜市は、地域の森林を市民が活動するためのフィールドとして考えて、市民のグループが森林管理できるようにしていこう、目指していると。ただ、もちろん問題がありま

して、そういう試みをしているとかですね。長浜市は林業の町ではないので、かなり松本と近いかなと思いますし。

北海道の夕張市は森林を産業の場、産業振興の対象としてだけじゃなく、その住民福祉の向上という視点から、その森林をどういうふうに使っていかうかっていうふうに、これが林、福、福祉の福で、いわゆる林福連携っていうんですけど、そういう視点で取り組んでいる。

あと市とか県とかっていう行政と、林業事業体っていう営利団体だけじゃなく、サードセクターというふうなものを育てていって、森林を管理していく、活かしていくっていうふうなことをやっていかなきゃいけない。そういうことが書いてある。こういう経験から学んで松本市でできることっていうのを探してみるっていうのは必要かな？

これは何かちょっと私の役目かなと思うんですけど。そういうのも課題出しの中で、いろんなヒントとして他の市ではこういうことやってるらしいっていうのをに入れていくということができれば、最終的な報告書でも、市民の方々に役に立つものになるのかなというふうに思います。

(香山)

今の本は我々4人プラス事務局の全員の課題図書ですね。とりあえず3回目までに読んどきましようみたいな、そんな感じがしますけれども。

これ、会議で話したのかその前の段階で話したのかちょっと忘れてるんですけど、三木さんには、ぜひ、これに関わる文献リストを作っていたいただきたいというのがありまして、もともと大学で学生さんのための文献リストって素晴らしいものがあるって、この文献リストの中に去年の松本の提言書も入ってるんですね。森林再生実行会議の報告のための、そこに多分付録として載ってくるであろう文献リストみたいながあると、専門の領域で一番得意とされてるところなので、いま1冊の本を紹介していただきましたけど、いろんな形で、ちょっとやっていただければと思います。

それ以外に今日なんか持ってきたっていうものありますか？

(渡辺)

持ってきたものとかは特にないんですけど、松本市内で移住した方が多かたりする中で、飲食店の横の繋がりとか、キャンプ関係のお店があたりとか、私たち世代の若い方に松本市のキーパーソンの方がいらっしゃると感じていて、そういった方で、今回の森林のことだったり、飲食店の中で森林に興味があって、動いていらっしゃる方々もいらっしゃるので、そこにアクションを入れて、三木先生が作ってくださったチラシを使ったりだとか、まずは知ってもらってという部分を強めていかないといけないって今日の会議で感じました。

第1回から第2回にかけての周知、今日この日に会議がありますっていう周知も Facebook とか市役所の公式ホームページでは広めていたんですけど、結果として今日の会議は YouTube で見ている人もいるし、傍聴席で参加されている方もいますが、なかなか都合が合わなかった方もいるし、そもそも今日この会議を開いているってことを知らない市民の方がまだまだ多いなって感じていて、そういうところで市内のキーパーソンの方にもっとアタックしてまずは知ってもらって部分を次の3回目以降に向けてもっと強めていかなければなと思いました。

(香山)

私は特別、これを持ってきたっていうものは無いんですけども、もうちょっとどんな仕事が発生するのかということを組み立ててみないと業界人は動かないだろうなっていうことで、もちろんこの会議の中ではそういう話はないんですが、こういうことがあるとこんな仕事が出てくるんだろうなっていうことが、ビジネスサイドでいうとやっぱり一番関心のあることで、提言の中で木材利用の部分について若干触れていますけれども、木材だけじゃないですね、森林に関わるのがどんな仕事になるのだろうかっていう、これは今回のこの実行会議の枠ではないんですが、やはりそういうことが動き出さないと、一つのエンジンなんですね。やっぱりその物事を進める上で、市民の意識って言葉があるんだけど、一方ではビジネスが動いてる。これは非常に強いエンジンになるので、これを少し構想していく。

これが実行会議の最終報告の中にどんな形で盛り込まれるかっていうことではなくて、私自身が一応林業側の専門の事業者として関わって、今も実は林業本体ではなくちょっと広げて、コンサルタントであるとか木材企画、そんなことも仕事にしてるところですが、これをまわしていく。少なくともそのエンジンのスターターには十分なれるとは思ってますから、そういうことを構想してるころで。会議とは別の部分になると思うんですけど、いろんな形で出していければなと思ってるところなので、何かしら動きがもしあれば、これも次回以降の会議の方にも、お土産として持ってくるんですが、ちょっと時間もかかることだとは思ってます。

(小山)

市でやってるいろんな情報くださいって言ったのは私なので、私の方でもまた由人さんと、よく相談しながら、情報入れていきたいと思うんですが、今言ってるお話を出していかないと森林に対する渡辺さんの課題になってる「知ってもらふこと」って繋がらないんじゃないかと思います。

自分たちがクラフトをやってるから木工に行くけれども、木には関心があるけど松本市の木じゃないよねってところが繋がっていかないのはその先がないから。それがビジネスとして見えてこないから。

一方で、先ほどの検証の中で出て来たデータの中ではある村ではワークセッションやりたい、ただ周りの村でやってるワークセッションとどう差別化していくかといった課題を、少しビジネスに指の先ぐらい突っ込むと皆さん興味を持ってくれる。それがビジネスになる、ならない。それから森林がそのままあることによって、どうビジネスになるのかとかいうのも含めてやっていかないと市民の皆さん、要するに自分のここなら俺関われる、ここはそれはやられちゃ困るみたいのところ、これ少し動きやすくなるので、こういうのがありますよという何かビジネス、要するに補助金のメニューみたいにビジネスモデルを出してしまうと、意味がないと思うんですけども、こんなことにも使えるよ、ところもあったよねというのがむしろ自治体戦略の中でいろんな記事で動かれているのありますからそういうところから、ここではこんなことやりましたよっていうモデルケースをもっていく、それに関しては松本市のこんな会議ではこんな議論があったよねっていう、繋げる作業というのは、三木さんが市民に聞こうとするのを私がそこを宿題として動かなきゃいけないのかなっていうちょっとプレッシャーがありますけれど。

そんな役割分担で、香山さんはご自身のビジネスの中でアイデアを膨らましてやっていく。私自身は、市のいろんなところで持っている情報の中でのそういう繋ぎ部分で市民にどう連携できそう

か、っていうところは第3回に持ち込めればみんな win-win なのかなって気はしました。

自分自身、遠くの人に聞いたのは中町1回で終わりだから、次は楽しようかなと思ったけどどうもそうはいかないなということで、そんなお話を最後に入れました。

(香山)

というわけでそれぞれが自分の宿題を発表しあったと言う感じだと思いますので、第3回の会議、概ね、11月中ぐらいに行われるのかなという気がしていますが、ちょっとスケジュールについてはまた改めて事務局と相談しつつ、4人で調整してってことになると思いますけれども、そこに向けて、引き続き会議の外側の活動を進めていきたい、そういうふうに思いますので、そんな形でほしい予定の時間になってきましたので、そろそろ終わりにしたいところなんですけれども。

改めてですね、今日この会場にいらっしゃってる方、YouTubeでライブで見ていただいている方、録画を見ていただく方にお話したいんですが、この森林再生実行会議というのは非常に変わった会議で、すでに4人は、決まった時間、ここで今年度5回の会議をやるというふうに市の方で決められていますが、それとは別に会議室の外でいろんな活動しています。

さらにこの会議自体が、今後、基本的には、こういう形で、皆さんの前で開かれた形でやっていくということを原則として考えていますので、いろんな形、アクセスできる入口を作っています。松本市の公式ホームページもありますし、Facebookもあります。さらに、この4人の委員はそれぞれ独自のいろんなチャンネルで発信をしていますので、ぜひ気楽にアクセスしていただいて、とにかく意見をいただきたい。そこでそれぞれコミュニケーションを続けるということをやっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で時間になりましたので、会議の方は閉じたいと思います。

事務局お願ひします。

(事務局)

委員の皆様、長時間にわたりご協賛いただきましてありがとうございました。また来場された方、YouTubeで視聴された方ありがとうございました。次回に向けてまた香山座長をはじめ委員の皆さんと連絡を取りながら、進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。それでは第2回松本森林再生実行会議を終了いたします。

(閉会)